

室戸ユネスコ世界ジオパークにおけるサイト見直し Revision of "site" in Muroto UNESCO Global Geopark

*中村 有吾¹、高橋 唯¹、仙頭 杏美¹、和田 庫治¹

*Yugo Nakamura¹, Yui Takahashi¹, Azumi Sento¹, Koji Wada¹

1. 室戸ジオパーク推進協議会

1. Muroto Geopark Promotion Committee

室戸ジオパークは、2008年に日本ジオパークに認定されてから、今年で満10年となる。2018年には、今後10年間の活動計画（マスタープラン）を策定し、今後のジオパーク活動を推進する上で主要な活動場所となるサイトおよび拠点施設を見直し、新たに指定することになる。その際、2015年のGGN再審査による指摘事項（Recommendation）に対応するため、次の条件を満たすサイトを設定する：内陸のサイトを増やす、地質サイトとそれ以外（生態・文化）をわけ、自然の家展望台などツーリストの関心を引く施設も活用する、構造地質学的要素（断層など）をとりいれる、施設や道を「サイト」としてはいけない。ただし、大前提として、室戸ジオパークのテーマ（「海と陸が出会い 新しい大地が誕生する最前線」）およびそこから派生するジオストーリーに沿った地点を、サイトとして設定する。

新たなサイト設定には、従来「ジオサイト」として活用してきた地点を再定義するとともに、市民から要望のあったサイトでテーマとの関連するものを新たにサイトとして定義した。そのほか、専門員による野外調査・文献調査に基づいて、室戸ジオパークに分布する主要な地層（Formationレベル。場合によっては Memberレベル）や地形（海成段丘や海食地形など）は代表的な地点をサイトとして認定する。その際なるべく、室戸半島の東海岸・西海岸でそれぞれ認定する。その結果、51のジオサイト、10のエコサイト、17のカルチュラルサイトを「サイト」として、また、展示施設や展望台などの10施設を「拠点施設」として、設定した。

キーワード：サイト、施設、再審査による指摘事項、室戸ユネスコ世界ジオパーク

Keywords: Site, Facility, Recommendation after the revalidation process, Muroto UNESCO Global Geopark